

## 第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

### 重点目標⑧ 教職員の資質・能力の向上

教育への情熱を持ち、豊かな人間性を備え、自己相互研鑽を積み、確かな教師力を持った教職員をめざします。



# 1 教職員研修の充実

## ◆ ねらい

教職員としての専門性や実践的指導力、幅広い社会性や柔軟な発想、対人関係のスキル等を養い、さらなる教師力の向上をめざします。

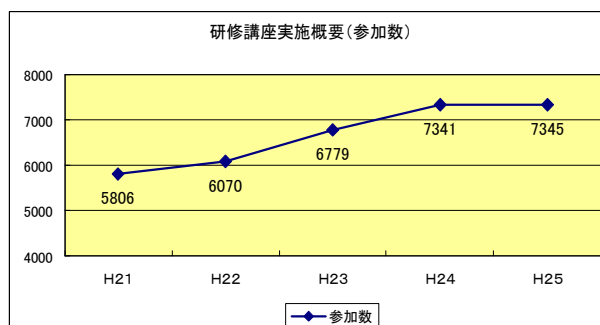
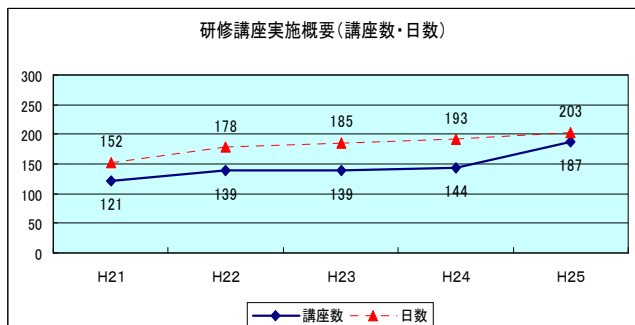
取組指標	実績値 (平成23年度)	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	目標値 (平成27年度)
教師力向上サポートブック「教師力向上研修」の活用による研修の取組評価	3.0 (4点満点)	3.1 (4点満点)	3.1 (4点満点)	3.6 (4点満点)

## ◆ 現状と課題

### ○ 「教師力向上研修」の活用

「教師力向上研修」を全教職員が個人の研修計画やその振り返りに活用しています。管理職との面談を通じて、個人目標、その達成に向けての具体的な取り組みの決定をします。そして年度末には取組を振り返り自身の課題への考察に生かされています。

### ○ 教職員研修の現状（講座数・日数、参加者数）※ICT出前研修を除く。



教職員研修講座では受講者の課題に応じた講座の充実を図っています。25年度の講座実施後の受講者による調査票では、理解度・活用度の評価の平均は3.84（4点満点）という高い評価を得ています。

上記以外に、小学校のコンピュータ教室のコンピュータが新しくなり、その操作等の研修を希望のあった小学校に出前研修として行いました。（出前研修小学校25校）

### ○ ライフステージ別教職員研修

教職員研修講座では、個人年間研修計画に基づいた講座選択ができるように、教職経験年数（ライフステージ）に応じた講座の充実を図りました。

若手教員研修（小中学校対象114人・必修講座3回選択講座2回）や、ミドルリーダー教員研修（幼小中対象46人・必修講座2回、選択講座2回）など、ライフステージに応じた講座、自己の課題に見合った講座の受講が増えました。参加型の研修会を増やすことで、互いの実践交流を図ることができました。



ミドルリーダー教員研修

○ 若手スキルアップ研修(実践交流研修)の実施

若手教員の必修講座として小学校はブロック別に5講座の授業づくり研修を、中学校は教科別に10講座の授業づくり研修を行いました。中学校の場合、教科によって対象となる教員の数が少数の講座もありましたが、参加者のその講座に対する満足度は高く、その後の実践にすぐに生かせるものとなりました。また、若手教員研修対象者以外の教諭も自主的に参加し、授業を通してより自分の実践に生かせる研修となりました。



小学校ブロック別授業づくり研修

○ 課題

今後も増加する若手教員に対する研修を、より一層進める必要があります。また、自己相互研鑽を効果的に推進するための「教師力向上研修」を引き続き進めていくことが大切です。

そして、研修に参加し教師が学んだことを、自校の授業実践に取り入れ、学級経営等に生かしたり、子どもたちの学びを深めていくことにつなげたりすることが求められます。



中学校教科別授業づくり研修

◆ 今後の方向性

○ ライフステージ別教員研修等の充実

ライフステージに応じた教師力の向上を図るため、自己相互研鑽を効果的に推進するための「教師力向上研修」を進めます。

受講対象者や研修のねらいを明確にし、より実践的で能動的な教職員研修講座を実施することで、一人一人の「教師力向上」を図ります。

特に、教職経験2年未満の若手教員対象の「若手教員研修」及び30～40歳代前半教員対象の「ミドルリーダー教員研修」をさらに充実させ、校・園内におけるOJTを生かした教職員の資質向上を支援します。



冊子「平成25年度  
教師力向上研修」

○ ニーズに応じた研修の推進

学校の現状や要請に応じて、初任者研修や若手教員研修対象者の授業を参観し、校内研修の進め方や内容等について相談やアドバイスを行います。

また、ICTを活用した授業づくりや、より実践的なICT活用に対する研修など、それぞれの現場のニーズに応じた助言や支援を、各校・園に出かけて実施します。

## 2 研究協議会活動の充実

### ◆ ねらい

四日市市・三重郡内の幼稚園、小・中学校の全教職員（校長・教頭・教諭等）は、勤務校園を超えて35の三沔教育研究協議会のいずれかに所属し、それぞれに研修テーマを設けて主体的な研修活動に取り組んでいます。また、研究協議会活動を通して保護者や地域の人々との連携も進めています。

この研究協議会活動の運営の母体となっているのが、「三沔教育研修運営委員会（略称三沔運営）」です。三沔運営は、三沔管内教職員の研修活動における事業の運営や調整について支援をしています。このような主体的な研修組織は全国的にみても大変特色あるものです。

### ◆ 主な取組状況

#### ○ 研究協議会の活動

研究協議会は、年間7回（5、6、10、11、12、1、2月）の定例日を設定し、授業研究、研究発表、実践発表、実技研修等の研修会を実施しています。

6月と11月定例日を「授業研究の日」と位置付けて実施することで、各研究協議会において授業づくりを核とした充実した授業研究を進めることができました。

数年来の協議会間で連携した研修会を継続し、幼稚園と小学校、小学校と中学校あるいは専門別、課題別・問題別研究協議会が相互参観による授業研究や協働的な指導方法、教材開発等の研究を行ってきました。

研究協議会名	協議会数	授業研究数
小学校教科別研究協議会	9	18
中学校教科別研究協議会	10	18
専門別研究協議会	5	6
課題別・問題別研究協議会	11	11



#### ○ 教育講演会、教育研究大会

教育講演会、教育研究大会（課題別・問題別教育研究大会）では、教育の現状に照らしたテーマを取り上げ、保護者も交えた研修会を実施しました。各研究協議会の研修成果の発表の場であるだけでなく、保護者と教育に関して意見が交流できる場にもなりました。

開催日	講演会・研究大会名	場所	参加人数
8月21日（水）終日	教科別・専門別教育研究大会	24会場	1231人
8月27日（火）午前	教育講演会	文化会館	524人
8月27日（火）午後	課題別・問題別教育研究大会	15会場	873人



○ 研究協議会共催研修会

教育委員会と研究協議会が共催して、教職員の資質・能力の向上を図るための研修会を企画しました。教職員個々のステージに応じた研修、専門分野における実技・実践力の向上や課題解決につながる研修、参加体験型の実技研修会、講義・演習会等を実施しました。



・実施講座数 21講座 参加人数 1,381人

◆ 今後の方向性

- 各研究協議会では、教職員の資質・能力の向上をめざし、喫緊の教育課題に対応した実践的な研修会を実施します。また、授業研究を中心に据えた指導内容・指導方法、教材開発研究、授業改善等を研修するにあたり、ワークショップ型研修会等、工夫ある研修会を企画・実施し、自己相互研鑽を推進していきます。
- 教職員が研究協議会定例日の研修会に参加しやすいような環境を整え、より一層の協議会活動の活性化を図ります。
- 教育委員会と研究協議会との連携を一層深め、共催研修会における専門的で多様な企画内容の充実を図ります。
- 研究協議会間の連携を図ることで、双方の専門分野を交流させながら、より充実した研修を推進していきます。



### 3 校・園内研修の充実

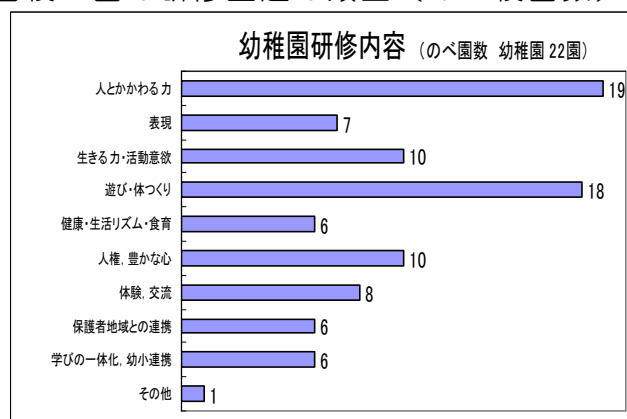
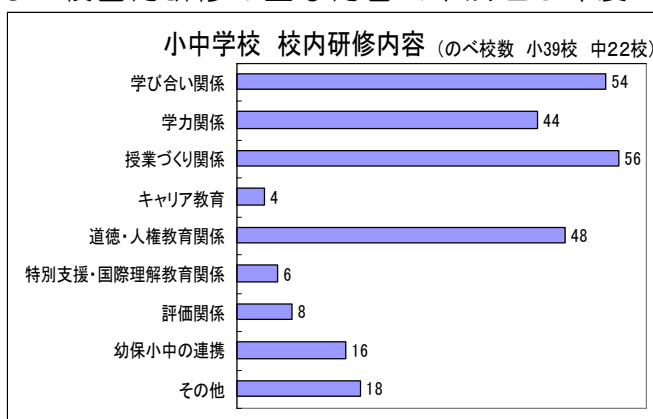
#### ◆ ねらい

校・園内研修を充実させ幼保小中での指導体制の一体化を図ることで、教職員一人一人の力量を高め、子どもの成長と学びを系統立ててはぐくんでいきます。

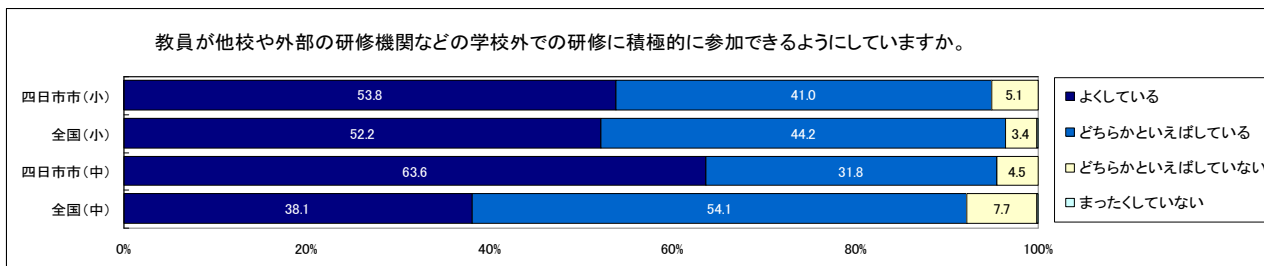
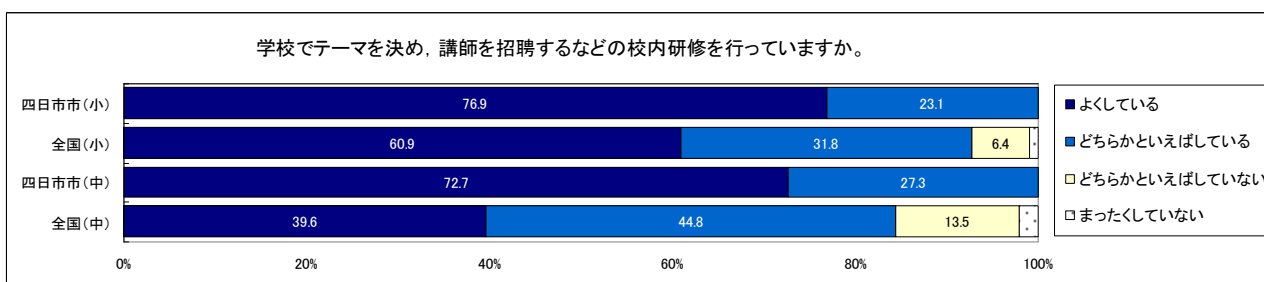
取組指標	実績値 (平成23年度)	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	目標値 (平成27年度)
教職員全員が相互研鑽のため授業公開をした学校・園の割合	91.9%	98.4%	98.5%	100%

#### ◆ 現状と課題

##### ○ 校園内研修の主な内容＜平成25年度 各校・園の研修主題の類型（のべ校園数）



学び合い……………互いに尊重しあう関係の中で、見方や考え方が異なる他者とかかわりながら考えを深めたり広げたり、修正したり補完しあったりすることでそれぞれの考えをより質の高いものとしていくこと  
 学力関係……………基礎基本の定着や、思考力・表現力などの育成を図る研修  
 その他……………運動、家庭との連携、ICTの有効活用などの研修



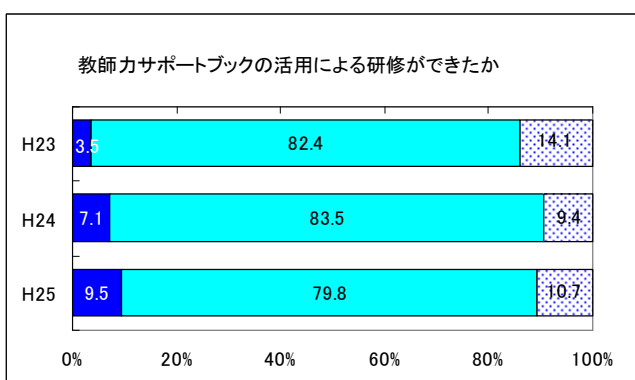
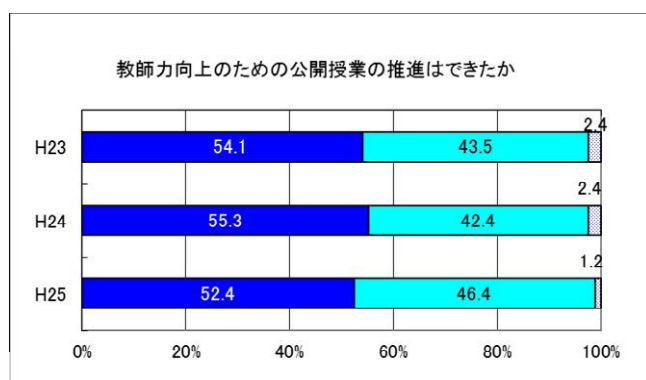
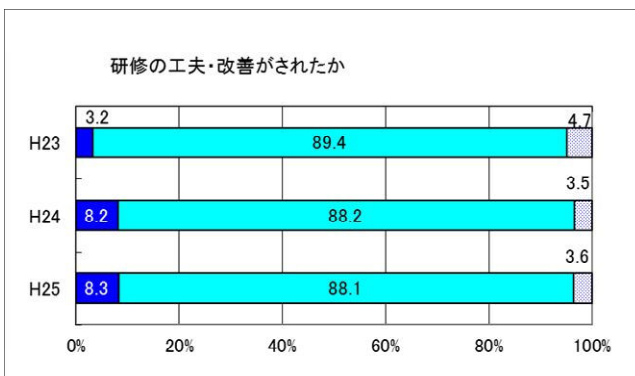
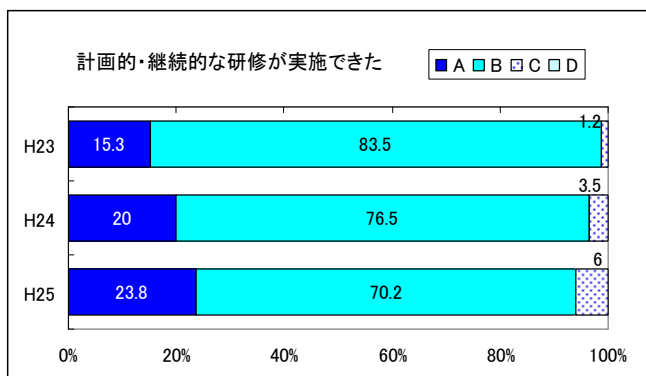
※H25全国学力・学習状況調査学校質問紙から

重点⑧ 教職員の資質・能力の向上

- すべての学校・園において、学校づくりビジョンに基づいた研修テーマを設定し、校・園内研修の充実が図られています。
- 全国学力・学習状況調査の学校質問紙における状況から、全国との比較において、校・園内研修の充実が図られていることがわかります。

○ 研修に関する各学校・園の反省

〈平成25年度学校・園教育活動の評価から〉 〈幼稚園 23園 小学校 39校 中学校 22校〉



「A」：十分 「B」：おおむね十分 「C」：やや不十分 「D」：不十分

- 各学校・園の反省からは、昨年から「十分」と答えた割合に若干の増加がみられます。教師力向上サポートブック(「教師力向上研修」)についても、「教師力サポートブックの活用による研修ができたか」の問いに対して、「十分」と答えた学校・園の割合が増加していることから、サポートブックの活用が浸透してきている様子わかります。
- 各校・園とも、教職員全員が年1回以上授業公開等を行い、授業改善を目的とした研修が進められています。内容、指導等について分析・検証する授業研究を行うことができています。
- 学力関係、授業づくりに関する校内研修が増加しています。子どもたちの「確かな学力の向上を図る」視点において、各校における研修が広く進められています。



○ 三重大学教育学部等との連携による校・園内研修会の実施回数

	学習指導・授業づくり	生徒指導	道徳	健康・体力向上	特別支援	家庭・地域との協働	その他	合計
幼稚園	0	0	0	0	12	1	0	13
小学校	38	0	0	0	0	2	1	41
中学校	3	0	0	1	3	0	0	7
合計	41	0	0	1	15	3	1	61

- ・ 教職員の専門性を高め、教師力向上を図る目的から、三重大学教育学部との連携により、大学の教官を各校・園に招いて研修の充実に努めています。各学校・園の課題の解決に向けて、専門的な立場からの適切な助言が有効に活用されています。

○ 指導主事の派遣

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	3	24	110	44	80	23	84	81	13	32	24	8	526

各校・園から要請を受け、各種研修会等における助言や指導のために学校・園を訪問しています。要請以外でも、随時、学校・園を訪問し、指導や助言、相談に応じています。また、関係機関を訪問し、調整に努めています。

◆ 今後の方向性

- 各学校・園内での日常的な相互授業公開や実践交流の実施を一層進めます。
- 校区が一体となった研修推進体制の充実が図られるよう、学びの一体化の取組をさらに進めます。
- 全国学力・学習状況調査を活用し、各校の教育指導の充実と学習状況の改善を図る目的から、学力向上に関する研修会を設定し、学校における改善の取組への支援を行います。校内研修の効果についても、子どもの姿を通じて検証を行い改善を図っていきます。
- ライフステージに応じた各種研修会への積極的参加を促すとともに、校内での共有化を進めます。